

宮崎まちづくり活動団体情報

Vol. 20



【宮崎まちづくり協議会】（きらり輝く活動団体を紹介）

防火水槽周辺の整備活動を地元ボランティア団体が実施（石原町お助け隊隊長 梅村奉英さん）

○石原町の防火水槽周辺の樹木伐採作業を実施しました

令和6年3月2日（土）、消防団の非常用水利である防火水槽周辺にある樹木の伐採作業を実施しました。場所は、額田消防団第二部詰所の西隣にある防火水槽です。隣接地の樹木が大きくなり、枯葉が水槽の中に入るなど消火活動に支障がある状況となり、地域から伐採の要望がありました。石原町自治会が支援する「石原お助け隊」が出動し、住民の安全確保の観点から周辺の樹木の伐採をするものです。地権者に伐採のお願いをしたところ、快く承諾いただきました。当日の作業は、樹木に巻き付いた蔓の撤去と伐採して集積した木材の片付けです。石原お助け隊は、年に6回ほど出動して町内の清掃や景観形成作業を実施しています。今回もメンバーが手際よく作業を行い午前中には、周辺の整備を終えることができました。次年度の自治会は、町内のクリーン運動を積極的に行う方針であり、私たちの活動も忙しくなりそうです。防火水槽周辺の整備や町内の景観形成に資する作業など、住民が自主的に実施する地元の活動は、まちづくり活動の基本であると認識しています。

○作業状況画像（安全な作業を心掛けています）





【宮崎まちづくり協議会】

宮崎学区福祉委員会（委員長 山本一郎さん）

○令和5年度のミソ端会議が開催されました



令和6年2月12日（月）市民ホームにおいてミソ端会議が開催されました。地域のことを一つでも多く話し合い、皆さんで共有することを目指し、気軽に話し合える福祉座談会です。地域福祉の活動が見える化し、住民同士で共有して今後の取り組みに繋げていくものです。具体的には、第4次岡崎市地域福祉計画の進捗状況を確認するものです。会議の中では、新たな課題や地域の思いを話し合い、共有する機会となりました。グループワークにより取り組みが整理され、次年度への指針を見つけることができました。

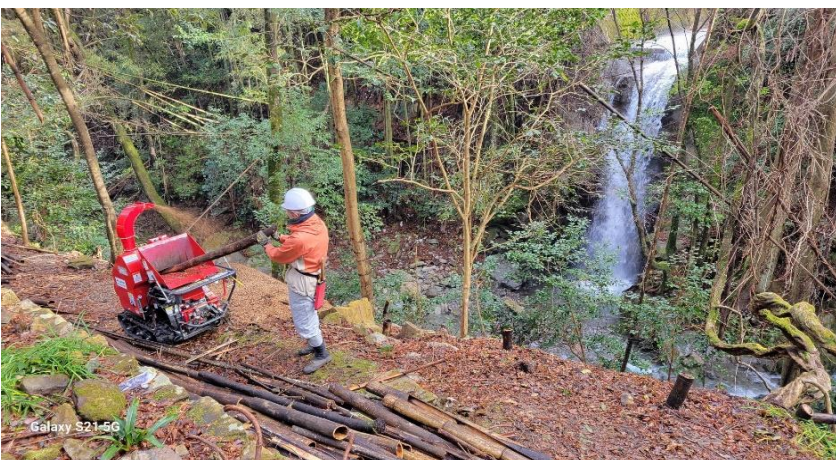
【宮崎まちづくり協議会】

オクオカ竹プロジェクト作業（副会長 梅村順一）

○くらがり溪谷駐車場脇の遊歩道整備



令和6年2月24日（土）、くらがり溪谷の遊歩道の景観形成を目指し、枯れた竹の整理伐採を行いました。前日の雨により、竹が濡れていることから作業に支障がないか心配でした。遊歩道沿いに積み上げられた枯れ竹の処理は、ご協力いただいた皆さんのおかげで、概ね処理することができました。不動の滝を過ぎ、牧原の滝を望みながら河川まで安全に降りていくことができるようになりました。夏には多くの観光客が河原で過ごすことができるでしょう。



皆様のご協力に感謝！

河川への道がきれいになりました

【教育環境部会】

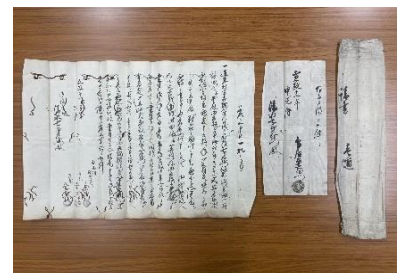
歴史文化探訪委員会（中山間政策課 山口遥介さん）

○雨山町・清水家の未発見資料に驚愕！

学芸員としての経験が活かされればと思い、令和5年度より歴史文化探訪委員会に参加させていただいています。先日雨山町の清水家から江戸時代の古文書や絵画などが発見されたため、資料調査を行いました。清水氏は「清水家系図」によると、その祖を村上天皇とし、もとの姓は赤松氏で1160年の平治の乱における六波羅合戦で敗走し、美濃国清水村に潜居してから「清水」を称し、15世紀中頃に雨山に移り住んだとされます。有名な「雨山合戦」（1556年）では領主・阿知波氏に従い清水氏も戦闘にも参加したものとされます。江戸時代には代々庄屋として雨山村の村政に大きな影響力を持ち、その発展に努めました。

さて、今回の資料調査では、古文書、絵画、甲冑、鍬など多くの資料が確認されました。江戸時代のものが多く、旗本領の庄屋資料として市内でも貴重な資料群と言えます。

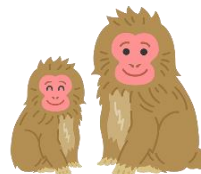
岡崎市ではこれまで様々な資料調査を実施してきましたが、これほどの資料が今まで知られてこずに今回新たに見つかったことは驚嘆すべき発見でした。現在、資料は岡崎市美術博物館に預けられ、今後の適切な保存に向けた検討を行っていくとのことです。



【くらがり活性化部会】

くらがり活性化実行委員会（委員長 菅沼弘さん）

○くらがり活性化の考察



現在宮崎は、人間を恐れなくなったニホンザルが頻繁に出没し、田畑を荒らしています。50年前には、サルの姿を見ることはありません。当時、本宮山の山奥にはザルが生息していました。

しかし警戒心の強いサルが山里に降りてくることは皆無でした。そこで、ニホンザルをくらがり溪谷の観光の目玉としようとする時代がありました。大学教授の指導のもと「餌付け」を行い、人への警戒心を緩めて溪谷に出没させ、観光客の目に触れさせようとした。結果は大失敗。専門家でもサルの警戒心を解くことはできませんでした。もし、餌付けが成功していたら里に下りて田畑を荒らす時期が早まったでしょう。「餌付けなんかするから サルが出てきて野菜を取られた」と住民から非難されたと思われます。この他にも、溪谷には「ハナノキ」を植えました。大木になり苦労しています。これらを踏まえると、活性化には人為的なものは良い結果が出ないようです。

【宮崎まちづくり協議会】

宮崎学区ミライづくり委員会（委員長 梅村順一）

○宮崎学区ミライづくりの実施計画ができました



前回皆さんにご報告した、宮崎学区のミライづくりの基本方針に従い、住民が具体的に推進していく実施計画が示されました。地域の住民代表が、回を重ねて実現可能な計画を具体的に示すことができました。ひとり一人が、自分のこととして積極的に取り組んでいきたいと思えます。共に宮崎の未来をつくりましょう